

令和8(2026)年度

# 履修の手引

徳島大学大学院創成科学研究科  
生物資源学専攻



# 目 次

趣旨・目的・指針 .....	1
創成科学研究科生物資源学専攻のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー .....	1
教育クラスターについて .....	8
履修方法等の案内 .....	8
学生への連絡及び諸手続について .....	28
ハラスメントに関する注意 .....	35
規則集 .....	37

## 付 録

1) 教員の一覧 .....	38
2) 講義室配置図 .....	39

規則集は、以下 URL（履修の手引掲載ページ）のご自身の対象年度の「大学院履修の手引（規則集）」をご覧ください。

<https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/campus-life/syllabus/#s2>





# 趣旨・目的・指針

## 趣旨

徳島大学は、産官学連携により地方創生を推進することを大学の目標としていますが、地域の生物資源を生かした地方創生を実現化するためには、生物資源学に関する高度な知識と先端的技术に加えて、内閣府の政策である超スマート社会（Society 5.0）への転換が必要とされています。すなわち ICT や AI による新たな価値の創造に貢献できる人材の育成が必要です。

## 目的

生物資源の持続可能な開発は、人類にとって最も重要な課題の一つであり、地域社会のみならず国際社会においても総合的な取組が必要な分野です。また、1次産業の成長産業化や6次産業化は、地域創生のための国の重要政策になっています。生物資源学専攻は、地域創生の原動力となる国際競争力の高い生物資源の開発に貢献できる人材育成を目的としています。

## 指針

生物資源のヘルスサイエンスへの応用・製品化等による新しいバイオ産業の創生や、新しい機能食品や食品製造システム等の開発等による新しい食品産業の創生、並びに農工連携による生物生産システムの構築や新しい育種・品種改良技術による一次産業の成長産業化等を目指す教育を進めていきます。

# 創成科学研究科生物資源学専攻のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

## 創成科学研究科（博士前期課程） 生物資源学専攻 【修士（生物資源学）】

徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針 (カリキュラム・ポリシー) -教育課程の編成・実施・成績評価の方針-
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物資源学分野の周辺領域も含めた幅広い知識と論理的分析力を備え、総合的かつ専門的な視点から問題意識を持ち、地域社会の課題を探求し解決できる能力、並びに新たな価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 多様な視点から生物資源に関する諸課題を分析し、解決に向けた世界水準を目指す研究の成果を発信する能力を身につけ、持続可能な地域発展のための産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物資源学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基にした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような高度専門職業能力に加え、生物資源学分野において新たな価値を創成できる能力を養成する教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と教養、高い倫理観並びに自発的意欲を育て、社会の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力や自律的な応用力と創造力を涵養できる講義科目や実習科目を開設する。そこでは、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 生物資源に関する諸課題を分析し、解決に向けた世界水準を目指す先進的研究並びに技術開発を推進し、自身の研究成果を国際的に発信する能力を修得させると共に、持続可能な生物資源の活用により社会に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p>

	<p>2. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>生物資源学分野の周辺領域も含めた幅広い知識と論理的分析力を備え、総合的かつ専門的な視点から問題意識を持ち、地域社会の課題を探索し解決できる能力、並びに新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目や教育クラスター科目の選択科目を通じて、各自が必要とする生物資源学分野に関する高度な専門知識を身につけるとともに、地域社会の課題を探索し解決策を立案する学修を実施する。また、研究科共通科目のデータサイエンスを通じて、論理的思考力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>コース専門科目や教育クラスター科目の自由な選択による幅広い知識の修得と、演習形式やアクティブ・ラーニングを取り入れた課題解決力を養う教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を試験、レポート、プレゼンテーション等によって適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専攻共通科目の生物資源学研究、研究科共通科目のグローバル教育科目群の選択科目を通じて、豊かな人格、教養、倫理観・責任感、コミュニケーション力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を試験、レポート、プレゼンテーション等によって適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>多様な視点から生物資源に関する諸課題を分析し、解決に向けた世界水準を目指す研究の成果を発信する能力を身につけ、持続可能な地域発展のための産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース専門科目における実習や特別講義、学位論文指導科目の演習や特別研究、研究科共通科目のイノベーション教育科目群の選択科目を通じて、科学技術や産業の創出に必要な専門知識・技術、問題解決力、プレゼンテーション能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>実習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。また、指導教員による修士論文の作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を試験、レポート、プレゼンテーション等によって適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科（博士前期課程） 生物資源学専攻 応用生命科学コース 【修士（生物資源学）】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針 (カリキュラム・ポリシー) -教育課程の編成・実施・成績評価の方針-</p>
<p>i 応用生命科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 幅広い知識、論理的思考力、応用生命科学分野の研究や製品開発に展開する高度な専門知識を身につけ、地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 応用生命科学分野の専門知識、高い倫理観・責任感を身につけ、科学的な議論を展開し相互に理解し合うことができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に貢献できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 生物資源学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、持続可能な生物資源産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>i 応用生命科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 応用生命科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基にした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、生物資源の利活用に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 生物資源の高度利用における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備え、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 幅広い知識、論理的思考力、応用生命科学分野の研究や製品開発に展開する高度な専門知識を身につけ、地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p>	<p><b>【学修内容】</b> 所属基盤コース専門科目や教育クラスター科目の選択科目を通じて、各自が必要とする応用生命科学分野に関する高度な専門知識を身につけさせるとともに、地域社会の課題を探求し解決策を立案する学修を実施する。また、研究科共通科目のデータサイエンスを通じて、論理的思考力を身につけさせる学修を実施する。</p> <p><b>【学修方法】</b> コース専門科目や教育クラスター科目の自由な選択による幅広い知識の修得と、演習形式やアクティブ・ラーニングを取り入れた課題解決力を養う教育を行う。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b> シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>応用生命科学分野の専門知識、高い倫理観・責任感を身につけ、科学的な議論を展開し相互に理解し合うことができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専攻共通科目の生物資源学研究、研究科共通科目のグローバル教育科目群の選択科目を通じて、豊かな人格、教養、倫理観・責任感、コミュニケーション力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>生物資源学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、持続可能な生物資源産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース専門科目の応用生命科学特別実習や応用生命科学特別講義、学位論文指導科目の応用生命科学特別演習や応用生命科学特別研究、研究科共通科目のイノベーション教育科目群の選択科目を通じて、科学技術や産業の創出に必要な専門知識・技術、問題解決力、プレゼンテーション能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>実習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。また、指導教員による修士論文の作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科（博士前期課程） 生物資源学専攻 食料生物科学コース 【修士（生物資源学）】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針 (カリキュラム・ポリシー) -教育課程の編成・実施・成績評価の方針-</p>
<p>ii 食料生物科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>食料生物科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>食料生物科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>ii 食料生物科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>食料生物科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基に、食品の安全性、機能性、嗜好性等について、論理的分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、食料に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p>

	<p>(3) 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>食品の安全性、機能性、嗜好性等における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>食料生物科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p>	<p><b>【学修内容】</b></p> <p>所属基盤コース専門科目により高度な専門知識を習得させ、教育クラスター科目により研究領域を深化・発展させる。研究科共通のデータサイエンスにより課題の探求と立案・遂行に必要な能力を修得させる。科学的考察力、論理的分析力、課題探求・問題解決力、自律的な応用力を身につけさせる。</p> <p><b>【学修方法】</b></p> <p>必要な科目を自ら選択して学修し、アクティブ・ラーニングを活用した実習や演習により技術を習得させる。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。</p>	<p><b>【学修内容】</b></p> <p>専攻科目の生物資源学研究や研究科共通のグローバル教育科目により教養や研究倫理を修得させる。倫理観、国際感覚、豊かな人格、コミュニケーション能力、自発的意欲、協働性を身につけさせる。</p> <p><b>【学修方法】</b></p> <p>アクティブ・ラーニングを活用した実践的講義・演習を実施する。研究テーマの設定、研究計画等の構築・討論を行わせ、研究の構築について学修させる。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>食料生物科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p><b>【学修内容】</b></p> <p>研究科共通のイノベーション教育科目により産業創成に必要な力を、食料生物科学特別実習・講義により食品産業や食品開発に貢献できる能力を修得させる。食料生物科学特別演習・研究により修士学位論文指導を実施し、論文を完成させる。</p> <p><b>【学修方法】</b></p> <p>アクティブ・ラーニングを活用した実践的講義・実習を実施する。指導教員による研究指導と修士論文作成の指導を行う。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。

創成科学研究科（博士前期課程） 生物資源学専攻 生物生産科学コース 【修士（生物資源学）】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針 (カリキュラム・ポリシー) -教育課程の編成・実施・成績評価の方針-</p>
<p>iii 生物生産科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物生産科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、1次産業のスマート化や6次産業化に展開する商業的基盤を深く理解し、自らの研究の背景や問題点を体系的に把握することにより、その結果を科学的に考察できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな教養と高い倫理観・責任感を身につけ自立して行動できるとともに、科学的な議論を展開することができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に自発的に取り組む意欲を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 生物生産科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、1次産業の振興及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>iii 生物生産科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物生産科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基に、持続可能な1次産業の構築や6次産業化について、論理的分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応することのできる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な授業科目、演習科目を編成し、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、生物生産に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 1次産業や6次産業化における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物生産科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、1次産業のスマート化や6次産業化に展開する商業的基盤を深く理解し、自らの研究の背景や問題点を体系的に把握することにより、その結果を科学的に考察できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 アグリサイエンスに利用可能な生物資源についても理解を高度に深める。生物資源の活用に関する従来技術を学修させる。今後発展可能な利用技術や6次産業化に必要な基盤を習得させる。</p> <p>【学修方法】 アグリサイエンスに関わる生物資源の発掘および利用について、従来技術の理解と課題を見出し、今後の地域、国内および海外において発展させることのできる活用技術の基盤を理解させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな教養と高い倫理観・責任感を身につけ自立して行動できるとともに、科学的な議論を展開することができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に自発的に取り組む意欲を有する。</p>	<p><b>【学修内容】</b></p> <p>学識と研究能力及び高度専門職業能力において行う学修を進める上で、科学的な議論を正確に行うための技術、コミュニケーション能力を習得させる。</p> <p><b>【学修方法】</b></p> <p>修士論文作成の過程で行うセミナーおよび進捗報告会において、学修の段階と目標達成までの過程を自ら設定する。修士論文で取り組む研究分野以外の課題とどの様に関連しているか、連携していけるのかを掘り下げて学修させる。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>生物生産科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、1次産業の振興及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p><b>【学修内容】</b></p> <p>自身の進める研究課題が国際社会にいかに関与できるか、そのためには何が必要かを見出し、論理的に説明する能力を習得させる。また研究課題をどのように産業発展に結びつけることができるかを考察し説明できる能力を習得させる。</p> <p><b>【学修方法】</b></p> <p>修士論文作成の過程で行うセミナーおよび進捗報告会において、研究課題が地域、国内外の問題とどの様に関わるのかをプレゼンテーションさせる。研究課題を関連学会、集会などで発表することにより、発信力を身につけさせる。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文に係る研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

## 教育クラスターについて

創成科学研究科では、幅広い視野と高い専門性を兼ね備えた人材を養成するため、従来型の学問体系に基づく基盤教育に加え、研究に基づく分野横断型教育を行います。

分野横断型教育を推進するために、所属するコースで実施する専門教育に加えて、各コースが設定する教育クラスターのうちからいずれか最適なものを選択します。選択した教育クラスターで開設する科目群から、自身の研究にとって最適と考えられる科目を履修します。このように専門分野の枠組みに捉えられない「教育クラスター」という仕組みにより、自らの研究分野を多角的に見る能力を養います。

入学後、指導教員と相談の上、各コースが指定する教育クラスターから最適な教育クラスターを1つ選択し、選択した教育クラスターで開講される科目を必要な単位数履修してください。

履修方法は、履修方法等の案内を確認してください。

## 履修方法等の案内

### (1) 履修科目の登録

- ① 履修科目登録は指定の期間内に、指導教員の指導を受けて受講科目を決定し、教務システム（WEB）により登録してください。
- ② 履修科目登録をしていない場合は、単位を修得することはできません。

### (2) 修了について

大学院に2年以上在学し、以下に指定する単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格することを要します。

なお、本専攻が指定する要件を満たした場合、期間を短縮して修了することも可能です。詳細は規則等を確認の上、指導教員にご相談ください。

専攻名	単位数		
	必修科目	選択科目	計
生物資源学専攻	16単位	16単位以上	32単位以上

### (3) 履修方法について

以下により、履修してください。

科目名		単位数			備考
		必修	選択	計	
研究科共通科目	データサイエンス	2	-	4	
	グローバル教育科目群	-	1		
	イノベーション教育科目群	-	1		
専攻共通科目	生物資源学研究	4	-	4	
教育クラスター科目		-	6	6	所属コースが設定する教育クラスターの中から、一つ選択。所属コース以外他コースまたは他専攻の開設科目2単位以上を含め、所属コース開設科目と合わせて6単位以上を修得する。
所属基盤コース専門科目		2	8	10	コース毎に開講する
学位論文指導科目		8	-	8	コース毎に開講する
計		16	16	32	

※ 授業科目等の詳細は以下のとおり。

履修にあたっては、指導教員とよく相談してください。

教育クラスター科目と、所属基盤コース専門科目は、重複する科目があるので、履修の際は注意してください。

なお、教育クラスター科目の必要単位数を超過して修得した所属コースが開講する科目の単位は、所属基盤コース専門科目の選択科目として修了要件に含めることができます。

#### 1) 研究科共通科目

2単位を必修とし、グローバル教育科目群、イノベーション教育科目群の各群より1単位以上修得してください。

授業科目等の名称		単位数		
		必修	選択	
データサイエンス		2		
グローバル教育科目群	国際協力論		1	
	グローバル社会文化論		1	
	グローバルコミュニケーションA		1	集中
	グローバルコミュニケーションB		1	集中
	グローバルコミュニケーションC		1	
イノベーション教育科目群	科学技術論A		1	
	科学技術論B		1	
	科学技術論C		1	
	科学技術論D		1	
	科学技術論E		1	
	ビジネスモデル特論		1	
	地域企業エクスターンシップ		1	
実践型地域インターンシップ		1		

## 2) 専攻共通科目

4 単位必修

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
生物資源学研究	4	

## 3) 教育クラスター科目

教育クラスターは、産業界・社会のニーズ（重要課題）に対応した研究に基づく分野横断型教育プログラムです。

本研究科では 14 の教育クラスターを設定し、本専攻各コースが指定する教育クラスターは、以下に示すとおり。

教育クラスター \ コース名	応用生命科学コース	食料生物科学コース	生物生産科学コース
ア) フォトニクス		○	○
イ) 防災・危機管理		○	○
ウ) 地域開発		○	○
エ) 環境・エネルギー	◎		
オ) メディカルサイエンス	◎		
カ) ロボティクス・人間支援			○
キ) データサイエンス	○	○	
ク) 機能性材料	○		
ケ) 環境共生		○	○
コ) 農工連携	○	◎	◎
サ) 応用生物資源	◎		
シ) 食品科学		◎	
ス) 6次産業			◎
セ) AI/DS			

◎○：各コースが選択可能な教育クラスター（◎は特に推奨するクラスター）

入学直後に指導教員と面談等を行い、所属コースが設定する教育クラスターの中から、選択してください。

選択した教育クラスターから 6 単位以上（そのうち、2 単位以上は他コースまたは他専攻の開設科目）を修得してください。なお、6 単位を超えて修得した科目のうち、所属コースが開設する科目の単位については、以下の 4) における選択科目の単位として、修了要件に含めることができます。

また、以下の表では、各教育クラスターにおいて本専攻が履修を推奨する科目を掲載します。他専攻の科目履修を希望する場合は、他専攻の履修の手引、時間割表及びシラバス等を確認してください。

※ 教育クラスター科目一覧

ア) フォトニクス

内容 食の安全確保に関して、高品質・高安全性食品の生産を行うために、光を利用したデバイス設計・製造・評価、光を応用した計測手法や情報通信技術など光応用関連技術に繋がる基礎知識を学び、食品製造のスマート化に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース、生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
蛋白質機能学特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
フォトニックデバイス		2	理工学
光機能材料・光デバイス論1		1	理工学
光デバイス特論		2	理工学
非破壊計測学		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

隔年(偶数年度) ↓他専攻科目  
集中

イ) 防災・危機管理

内容 防災・減災関連技術など社会のリスク管理や、災害時の非常食などの食品加工技術に関する基礎知識を学び、自然災害発生時の食料供給面への影響などに備えた取組に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース、生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
蛋白質機能学特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
耐風工学特論		2	理工学
斜面減災工学特論		2	理工学
リスクコミュニケーション		2	理工学
危機管理学		2	理工学
環境・防災地質学特論		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

ウ) 地域開発

内容 生物資源を活用した地域創生のために、徳島の地域特性を活かした社会再創生のための基礎知識を学び、地域の直面する課題を認識し、地域創生を図ることができる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース、生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
蛋白質機能学特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
森林代謝科学特論		2	生物生産
地域社会特論		2	地域創成
地域構造特論		2	地域創成
プロジェクトマネジメント		2	理工学
都市情報学特論		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

エ) 環境・エネルギー

内容 生物資源をエネルギー源として利用するため、持続可能なエネルギーの効率的な利用と環境保護に関する基礎知識を学び、森林資源等の有効活用により地域創生を図ることに貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
生体熱力学特論		2	応用生命
生物物理化学特論		2	応用生命
細胞情報学特論		2	応用生命
環境生物学特論		2	応用生命
生物化学工学特論		2	応用生命
創薬学特論		2	応用生命
細胞工学特論		2	応用生命
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命
分析・環境化学特論		2	理工学
化学反応工学特論		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

オ) メディカルサイエンス

内容 様々な生物資源が、医療産業における新たな医薬品、医療・衛生用素材等の開発や生産のための重要なリソースとして期待されているため本教育クラスターを設定する。生物資源を医学・医療現場に展開するために、関連する理学・工学の基礎知識を学び、生物に由来する成分を医薬品、医療用素材、衛生材料等へ応用できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
創薬学特論		2	応用生命
細胞工学特論		2	応用生命
再生医学特論		2	応用生命
先端生命科学特論		2	応用生命
微生物工学特論		2	応用生命
微生物検査学特論		2	応用生命
バイオメカニカルデザイン		2	理工学
多元画像処理		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

隔年(奇数年度)

カ) ロボティクス・人間支援

内容 1次産業の省力化を図るために、福祉・介護ロボットや生産技術・流通・計測ロボットなどロボット関連技術につながる基礎知識を学び、農作業の省力化により人材不足を補うなどの問題解決に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
森林代謝科学特論		2	生物生産
制御応用工学特論		2	理工学
ロボット工学特論		2	理工学
自律知能システム		2	理工学
情報ネットワーク		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

キ) データサイエンス

内容 生物資源に関する情報を生産管理に活用するため、膨大なデータから必要な情報を分類・抽出するデータ解析手法やその関連技術の基礎知識について学び、食品のビッグデータを活用した ICT 農業サービスの構築を行い、生産管理・販売の効率化ができる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース、食料生物科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
生体熱力学特論		2	応用生命
生物物理化学特論		2	応用生命
細胞情報学特論		2	応用生命
環境生物学特論		2	応用生命
生物化学工学特論		2	応用生命
創薬学特論		2	応用生命

細胞工学特論		2	応用生命	
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命	
資源利用学特論		2	食料生物	
機能性食品学特論		2	食料生物	
栄養化学特論		2	食料生物	
生体機能学特論		2	食料生物	
分子代謝学特論		2	食料生物	
食品科学特論		2	食料生物	
マルチメディア工学		2	理工学	↓他専攻科目
画像応用工学		2	理工学	
集積回路特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

#### ク) 機能性材料

内容 生物資源を機能性材料として利用するための、社会を支える素材の開発・設計・製造・加工・評価に関する基礎知識を学び、生物資源を機能性素材として活用し、新たな付加価値を創生することに貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース	
	必修	選択		
生体熱力学特論		2	応用生命	
生物物理化学特論		2	応用生命	
細胞情報学特論		2	応用生命	
環境生物学特論		2	応用生命	
生物化学工学特論		2	応用生命	
創薬学特論		2	応用生命	
細胞工学特論		2	応用生命	
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命	
生産加工学		2	理工学	↓他専攻科目
機械材料物性特論		2	理工学	
材料工学		2	理工学	
光材料科学特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

#### ケ) 環境共生

内容 地域の自然・文化・社会環境を理解し人間と環境の調和に根ざす持続可能な共生社会の実現につながる基礎知識を学び、農産物や食品等の生産において、環境に配慮した農薬、化学肥料、食品添加物等を使用し、生物資源の持続可能な供給と活用に携わる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース、生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
蛋白質機能学特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産

森林代謝科学特論		2	生物生産	↓他専攻科目
地域社会特論		2	地域創成	
地域構造特論		2	地域創成	
ミチゲーション工学		2	理工学	
環境生態学特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

コ) 農工連携

内容 農業の効率化のため、農工連携による次世代のスマート農業に関する先進的な農業技術、食品製造技術等に関する基礎知識を学び、これまでにない技術やノウハウを生み出すことができる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース、食料生物学コース（推奨）、生物生産科学コース（推奨）

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース	
	必修	選択		
生体熱力学特論		2	応用生命	↓他専攻科目
生物物理化学特論		2	応用生命	
細胞情報学特論		2	応用生命	
環境生物学特論		2	応用生命	
生物化学工学特論		2	応用生命	
創薬学特論		2	応用生命	
細胞工学特論		2	応用生命	
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命	
蛋白質機能学特論		2	食料生物	
応用微生物学特論		2	食料生物	
食品評価特論		2	食料生物	
食安全学特論		2	食料生物	
酵素化学特論		2	食料生物	
植物細胞工学特論		2	生物生産	
動物生殖工学特論		2	生物生産	
植物保護学特論		2	生物生産	
分子発生生物学特論		2	生物生産	
生産システム制御工学特論		2	生物生産	
植物分子生物学特論		2	生物生産	
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産	
分子生態学特論		2	生物生産	
水産植物学特論		2	生物生産	
畜産物利用学特論		2	生物生産	
農業市場学特論		2	生物生産	
農業経済学特論		2	生物生産	
森林生物学特論		2	生物生産	
森林代謝科学特論		2	生物生産	
生体工学特論		2	理工学	
バイオメカニカルデザイン		2	理工学	
自律知能システム		2	理工学	
情報ネットワーク		2	理工学	
制御応用工学特論		2	理工学	
ロボット工学特論		2	理工学	
光機能材料・光デバイス論1		1	理工学	集中
光デバイス特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

サ) 応用生物資源

内容 生物資源やその成分並びにそれらの変異体や誘導体を対象とし、生物工学的手法を用いて新しい機能性物質、有用微生物、高効率なバイオ医薬生産細胞等を探索・作出するための基礎知識を学び、それらを医薬品、化粧品、機能性食品や医療工学技術等の開発に応用できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
創薬学特論		2	応用生命
細胞工学特論		2	応用生命
再生医学特論		2	応用生命
先端生命科学特論		2	応用生命
微生物工学特論		2	応用生命
微生物検査学特論		2	応用生命
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
生体工学特論		2	理工学
バイオメカニカルデザイン		2	理工学
多元画像処理		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

隔年(奇数年度)

シ) 食品科学

内容 農林畜水産物や未利用生物資源の栄養性、機能性、安全性等に関する基礎知識を学び、その利点を有効に活用した新しい加工食品、機能性食品等の開発に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
資源利用学特論		2	食料生物
機能性食品学特論		2	食料生物
栄養化学特論		2	食料生物
生体機能学特論		2	食料生物
食品科学特論		2	食料生物
分子代謝学特論		2	食料生物
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
フォトニックデバイス		2	理工学
光機能材料・光デバイス論 1		1	理工学
光デバイス特論		2	理工学
非破壊計測学		2	理工学
自律知能システム		2	理工学
情報ネットワーク		2	理工学
生体工学特論		2	理工学
ヒューマンセンシング		2	理工学
バイオメカニカルデザイン		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

隔年(偶数年度) 集中

ス) 6次産業

内容 生物資源に新たな付加価値を与え、地域産物を用いた6次産業の企業化実践力につながる基礎知識を学び、1次産業を基幹産業化することによる地域の過疎化の防止や、地域活性化のための地域農水畜産物を活かした6次産業の構築を担う人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 生物生産科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
蛋白質機能学特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
森林代謝科学特論		2	生物生産
制御応用工学特論		2	理工学
ロボット工学特論		2	理工学
自律知能システム		2	理工学
情報ネットワーク		2	理工学
光機能材料・光デバイス論1		1	理工学
光デバイス特論		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

集中

4) 所属基盤コース専門科目

以下に示す所属コースの表に従い履修してください。

いずれのコースも2単位が必修で、選択科目から8単位以上を修得します。

なお、上記3)において、選択する教育クラスター科目と重複しないよう注意してください。(教育クラスター科目の必要単位数を超過して修得した所属コースが開設する科目の単位は、以下の所属コースの選択科目として修了要件に含めることができます。)

a) 応用生命科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
創薬学特論		2
細胞工学特論		2
生物化学工学特論		2
生体熱力学特論		2
生物物理化学特論		2
先端生命科学特論		2
環境生物学特論		2
再生医学特論		2
微生物工学特論		2
ケミカルバイオロジー特論		2
細胞情報学特論		2
微生物検査学特論		2
応用生命科学特別実習	1	
応用生命科学特別講義	1	

b) 食料生物科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
食安全学特論		2
酵素化学特論		2
応用微生物学特論		2
生体機能学特論		2
機能性食品学特論		2
栄養化学特論		2
食品評価特論		2
分子代謝学特論		2
蛋白質機能学特論		2
資源利用学特論		2
食品科学特論		2
食料生物科学特別実習	1	
食料生物科学特別講義	1	

c) 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
植物細胞工学特論		2
動物生殖工学特論		2
フィールド水圏生物学特論		2
畜産物利用学特論		2
植物保護学特論		2
森林代謝科学特論		2
分子発生生物学特論		2
生産システム制御工学特論		2
分子生態学特論		2
植物分子生物学特論		2
水産植物学特論		2
農業市場学特論		2
森林生物学特論		2
発生生物学		2
農業経済学特論		2
生物生産科学特別実習	1	
生物生産科学特別講義	1	

5) 学位論文指導科目

以下に示す所属コースの表に従い履修してください。

いずれのコースも8単位必修。

a) 応用生命科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
応用生命科学特別演習	4	
応用生命科学特別研究	4	

b) 食料生物科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
食料生物科学特別演習	4	
食料生物科学特別研究	4	

c) 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
生物生産科学特別演習	4	
生物生産科学特別研究	4	

#### (4) 成績評価基準

徳島大学大学院における、成績評価基準及び成績証明書等に記載する表示（「成績表示」という。）は次のとおりとします。なお、授業科目毎の成績評価方法、基準等はシラバスに記載します。

可否	成績表示	評価点の範囲	基準
合格	S (Outstanding)	100～90	科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A (Excellent)	89～80	科目の到達目標を十分に達成している。
	B (Good)	79～70	科目の到達目標を達成している。
	C (Fair)	69～60	科目の到達目標を最低限達成している。
	認 (Qualified)	認定	単位認定：入学前の既修単位（修了要件を満たす単位数となるが、GPA の計算には含めない。）
不合格	D	59以下	科目の到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。

\* 上表の到達目標とは授業科目のシラバスに明記された到達目標を指す。

#### (5) 生物資源学専攻 研究指導方針

「徳島大学大学院研究指導ガイドライン」に基づき、以下のとおり研究指導を行います。

当専攻の指導教員と各コース教員は、開講している科目群、「生物資源学研究」及び各コースの特別実習・特別講義・特別演習・特別研究を通じて、次のような研究指導を行う。

開講している科目群を履修することで、まず、様々な分野の課題を探求し、それを解決するために必要な能力を認識させることで自発的な学修を促す。次に、特別実習・特別講義・特別演習・特別研究によって、それぞれの特定分野に関する理解を深化させるとともに、当該分野における問題を分析して解決させることを通して、身に付けた分析力や解決能力を向上させる。

特別演習・特別研究を通じて、プレゼンテーション能力を錬成し、実践的なスキルとして身に付けさせ、研究成果を中間発表と学会発表させる。また、TA 活動を奨励し、この活動を通して役割や立場に応じたコミュニケーション能力を養成させる。

日本語と英語による論理的表現力とコミュニケーション能力の向上を目指した指導を実施し、国際化に対応できる能力を身に付けさせる。

研究成果を修士論文としてまとめ、修士論文公聴会において発表させる。

研究倫理については、主指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員による研究指導において直接指導し、また、e-learning 等を利用して、研究倫理観を醸成させる。

複数指導体制についての申合せ

・副指導教員及びアドバイザー教員は、専攻・コースの枠を超えて柔軟に選任できる。

#### (6) 研究倫理に関するプログラムの受講

入学者は、eラーニングプログラムにより、研究倫理教育を受講しなければなりません。指導教員の指示に従い、研究倫理教育を受講してください。

## (7) 研究指導計画書及び研究指導報告書

入学者は、指導教員から提示された研究指導計画書をもとに、研究における計画を立て、その計画に従って研究を進めてください。研究指導報告書は、各年次の終了時（修了年次は学位申請時）までに教務システムより入力し、指導教員に実施状況等を確認してもらってください。

様式等は生物資源産業学部ホームページ（URL：<https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/campus-life/style/#s2>）に掲載しています。



## (8) 研究活動におけるチェックリスト

研究活動の厳格化に基づき、研究活動におけるチェックリストの作成及び提出が義務づけられています。各学期末に、各自で「研究活動におけるチェックリスト」を記載し、指導教員に確認してもらった後、学務係に提出してください。

様式は生物資源産業学部ホームページ（URL：<https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/campus-life/style/#s2>）に掲載しています。



## (9) 長期にわたる教育課程の履修について

職業等を有している等の事情により、標準修業年限を越えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する者には、審査のうえ長期にわたる教育課程の履修を許可する制度があります。

希望する者は、関係規則を確認し、指導教員に相談のうえ、所定の期間内に学務係に申請してください。

## (10) カリキュラムマップについて

カリキュラムマップは、教育課程の体系性を明らかにするもので、修了に必要な履修科目やそれらの科目を学習していく順序等を示します。生物資源学専攻各コースのカリキュラムマップは、次のページから掲載します（各コースが推奨する教育クラスターのみ抜粋しています）。

## (11) トランスファラブルスキルについて

大学院において身につけた高度な専門性を有する知識や能力を発揮し、社会で成果をあげるためには、専門分野における知識や技能及び倫理観をはじめとする態度の修得に加えて、求められる状況に転移し、応用することができる能力が必要になります。そのような能力を「トランスファラブルスキル」といいます。徳島大学では、「徳島大学版トランスファラブルスキル」を定めており、教育プログラムの中で、体系的にトランスファラブルスキルの育成を行っています。

<徳島大学版トランスファラブルスキル>

1. 高度な知識や技術、社会的課題を扱う際の判断力と責任感
2. 異なる分野や領域の課題に関心を持ち自身の専門性を発揮する力
3. 自身の研究を他者に伝えるコミュニケーション力やプレゼンテーション力
4. 自身の研究と社会や地域とのつながりを見出す力

徳島大学版トランスファラブルスキル育成プログラム一覧は、高等教育研究センターのホームページ（URL：<https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/docs/52117.html>）に掲載しています。

就職活動等でトランスファラブルスキル修得証明書が必要な方は、学務係に申し出てください。



## (12) その他

履修等に関する問い合わせ

履修や修了要件等について、不明な点は指導教員に問い合わせること。

大学院創成科学研究科生物資源学専攻 カリキュラムマップ

対象コース	応用生命科学コース	
学生が学修したいテーマ	生物の特徴を学び、生物資源を有効活用する知識を修得する	
選択する教育クラスター	応用生物資源クラスター	
養成する人材像	生物工学的手法を用いて、生物資源又は成分並びにそれらの化学合成誘導体を対象に、新しい機能性物質を探索し、医薬品、化粧品、機能性食品等への応用に貢献できるとともに、生物資源由来の生理活性物質の構造設計や機能改善に有用な工学に関する基礎知識を有する人材を育成	
活躍が期待される分野	製薬系企業、化学系企業、医用工学系企業、化粧品産業、ベンチャー起業家、公務員、商社等	
年次	1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●応用生命科学特別演習④BIOS6910 (研究題目設定) (中間発表)	●応用生命科学特別研究④BIOS6920 (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻) 植物細胞工学特論②BIBI6030 生産システム制御工学特論②PPEA6000 動物生殖工学特論②ALSC6000 植物分子生物学特論②BISC6120 植物保護学特論②BISC6100 分子生態学特論②BIOL6000 分子発生生物学特論②BISC6110 フィールド水圏生物学特論②BIBI6000 他専攻クラスター科目※	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	創薬学特論②PHRM6000 再生医学特論②BIOS6070 細胞工学特論②BIOS6010 微生物工学特論②BIOS6080 先端生命科学特論②BIOS6050 微生物検査学特論②BIOS6110 生物化学工学特論②BIOS6020 環境生物学特論②BIOS6060 生体熱力学特論②BIOS6030 ケミカルバイオロジー特論②BIOS6090 生物物理化学特論②BIOS6040 細胞情報学特論②BIOS6100	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	●応用生命科学特別講義①BIOS6000 ●応用生命科学特別実習①BIOS6800 ●生物資源学研究④BIOS6900	
研究科共通科目 4単位 DP-2	●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	
【修了必要単位数】 32単位以上	●印は「必修科目」	
DP:ディプロマポリシー	※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照 ※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。	
トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学研究 ・応用生命科学特別演習 ・応用生命科学特別研究	

対象コース	応用生命科学コース	
学生が学修したいテーマ	生物資源の活用法としてバイオエタノールを学ぶ	
選択する教育クラスター	環境・エネルギークラスター	
養成する人材像	生物工学的手法を用いて、生物資源又は成分並びにそれらの化学合成誘導体を対象に、新しい機能性物質を探索し、医薬品、化粧品、機能性食品等への応用に貢献できるとともに、人類の持続的な発展に向けたエネルギーの効率的な利用と環境保護につながる基礎知識を有する人材を育成	
活躍が期待される分野	化学系企業、発酵醸造業、食品関連企業（生産・研究・商品開発）、化粧品産業、医用工学系企業、ベンチャー起業家、公務員、商社等	
年次	1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●応用生命科学特別演習④BIOS6910 (研究題目設定) (中間発表)	●応用生命科学特別研究④BIOS6920 (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻) 他専攻クラスター科目※ 生体熱力学特論②BIOS6030 創薬学特論②PHRM6000 生物物理化学特論②BIOS6040 細胞工学特論②BIOS6010 環境生物学特論②BIOS6060 細胞情報学特論②BIOS6100 生物化学工学特論②BIOS6020 ケミカルバイオロジー特論②BIOS6090 先端生命科学特論②BIOS6050 再生医学特論②BIOS6070 微生物工学特論②BIOS6080 微生物検査学特論②BIOS6110	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	●応用生命科学特別講義①BIOS6000 ●応用生命科学特別実習①BIOS6800 ●生物資源学研究④BIOS6900	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	
研究科共通科目 4単位 DP-2		
【修了必要単位数】 32単位以上	●印は「必修科目」	
DP:ディプロマポリシー	※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照 ※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。	
トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学研究 ・応用生命科学特別演習 ・応用生命科学特別研究	

対象コース	<b>応用生命科学コース</b>
学生が学修したいテーマ	生物資源を医薬等に高度利用する知識を修得する
選択する教育クラスター	<b>メディカルサイエンスクラスター</b>
養成する人材像	生物工学的手法を用いて、生物資源又は成分並びにそれらの化学合成誘導体を対象に、新しい機能性物質を探索し、医薬品、化粧品、機能性食品等への応用に貢献できるとともに、理学・工学の知識を医学・医療現場に展開するための基礎知識を有する人材を育成
活躍が期待される分野	製薬系企業、医用工学系企業、化学系企業、化粧品産業、ベンチャー起業家、公務員、商社等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●応用生命科学特別演習④BIOS6910 (研究題目設定) (中間発表)	●応用生命科学特別研究④BIOS6920 (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	<b>教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻)</b>	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目**	他専攻クラスター科目※ 創薬学特論②PHRM6000 再生医学特論②BIOS6070 細胞工学特論②BIOS6010 微生物工学特論②BIOS6080 先端生命科学特論②BIOS6050 微生物検査学特論②BIOS6110 生物化学工学特論②BIOS6020 環境生物学特論②BIOS6060 生体熱力学特論②BIOS6030 ケミカルバイオロジー特論②BIOS6090 生物物理化学特論②BIOS6040 細胞情報学特論②BIOS6100	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●応用生命科学特別講義①BIOS6000 ●応用生命科学特別実習①BIOS6800 ●生物資源学研究④BIOS6900	
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照

※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学研究 ・応用生命科学特別演習 ・応用生命科学特別研究
------------------	--

対象コース	<b>食料生物科学コース</b>
学生が学修したいテーマ	食品の栄養性や機能性を学び、新しい食品開発に関する知識を修得する
選択する教育クラスター	<b>食品科学クラスター</b>
養成する人材像	農林畜水産物や未利用生物資源の栄養性、機能性、安全性等を深く理解し、その利点を有効に活用した新しい加工食品、機能性食品等の開発に貢献できるとともに、地域創成のため、地域の生物資源の特性と有用性に関する基礎知識を有する人材を育成
活躍が期待される分野	食品関連企業（生産・研究・商品開発）、フードビジネス業、食品加工業、食品流通業、ベンチャー起業家、公務員、農林水産業団体職員等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●食料生物科学特別演習④BIOS6930 (研究題目設定) (中間発表)	●食料生物科学特別研究④BIOS6940 (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	<b>教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻)</b>	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目**	植物細胞工学特論②BIBI6030 植物分子生物学特論②BISC6120 動物生殖工学特論②ALSC6000 フィールド水圏生物学特論②BIBI6000 植物保護学特論②BISC6100 分子生態学特論②BIOL6000 分子発生生物学特論②BISC6110 生産システム制御工学特論②PPEA6000 他専攻クラスター科目※ 生体機能学特論②BAMD6000 栄養化学特論②BIOS6180 機能性食品学特論②BIOS6140 資源利用学特論②BIOS6170 分子代謝学特論②BIOS6160 食品科学特論②AGCH6030 食安全学特論②BIOS6130 食品評価特論②BIOS6150 酵素化学特論②AGCH6000 蛋白質機能学特論②AGCH6020 応用微生物学特論②AGCH6010	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●食料生物科学特別講義①BIOS6120 ●食料生物科学特別実習①BIOS6810 ●生物資源学研究④BIOS6900	
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照

※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学研究 ・食料生物科学特別演習 ・食料生物科学特別研究
------------------	--

対象コース	<b>食料生物科学コース</b>	
学生が学修したいテーマ	新しい加工食品の開発について学ぶ	
選択する教育クラスター	<b>農工連携クラスター</b>	
養成する人材像	農林畜水産物や未利用生物資源の栄養性、機能性、安全性等を深く理解し、その利点を有効に活用した新しい加工食品、機能性食品等の開発に貢献できるとともに、農業の効率化のため、次世代スマート農業に関する基礎知識を持つ人材を育成	
活躍が期待される分野	農林畜水産業及びそれらの関連法人、食品加工機械製造業、食品加工業、食品関連企業（生産・研究・商品開発）、食品流通業、ベンチャー起業家、公務員、農林水産業団体職員等	
<b>年次</b>	<b>1年次</b>	<b>2年次</b>
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●食料生物科学特別演習④BIOS6930 (研究題目設定) (中間発表)	●食料生物科学特別研究④BIOS6940 (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター科目 6単位以上 DP-1	<b>教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻)</b>	
	他専攻・他コース科目 2単位以上	農産物利用学特論②BIBI6010
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目 ※ ※	
	専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	●食料生物科学特別講義①BIOS6120 ●食料生物科学特別実習①BIOS6810 ●生物資源学研究④BIOS6900
研究科共通科目 4単位 DP-2	●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	
【修了必要単位数】 32単位以上	●印は「必修科目」	
DP:ディプロマポリシー	※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照 ※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。	
トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学 研究 ・食料生物科学特別演習 ・食料生物科学特別研究	

対象コース	<b>生物生産科学コース</b>	
学生が学修したいテーマ	植物工場等における次世代生物生産システムを学ぶ	
選択する教育クラスター	<b>農工連携クラスター (1)</b>	
養成する人材像	ゲノム編集技術等の最先端の育種技術を学ぶと共に、植物工場などの施設型生産システムやAIやロボットを活用する生産システムに関する科目を履修し、より生産性の高い農業、高付加価値商品の生産、新しい品種改良の知識・技術を修得し、新しい農業を通して社会貢献、地域活性化を志向するとともに、農業の効率化のため、次世代スマート農業に関する基礎知識を持つ人材を育成	
活躍が期待される分野	農業用機械製造業、農林畜水産業及びそれらの関連法人、種苗企業、農協、生協、食品製造業、農林水産技術者、畜産技術者、ベンチャー起業家、公務員等口	
<b>年次</b>	<b>1年次</b>	<b>2年次</b>
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●生物生産科学特別演習④BIOS6950 (研究題目設定) (中間発表)	●生物生産科学特別研究④BIOS6960 (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター科目 6単位以上 DP-1	<b>教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻)</b>	
	他専攻・他コース科目 2単位以上	分子生物学特論②BIOL6000
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目 ※ ※ ※	
	専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	●生物生産科学特別講義①BIOS6190 ●生物生産科学特別実習①BIOS6820 ●生物資源学 研究④BIOS6900
研究科共通科目 4単位 DP-2	●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	
【修了必要単位数】 32単位以上	●印は「必修科目」	
DP:ディプロマポリシー	※他専攻教育クラスター科目は履修の手引きを参照 ※※農工連携クラスター (1) 推奨科目 ※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。	
トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学 研究 ・生物生産科学特別演習 ・生物生産科学特別研究	

対象コース	生物生産科学コース	
学生が学修したいテーマ	次世代の水産技術を学ぶ	
選択する教育クラスター	農工連携クラスター(2)	
養成する人材像	最先端の育種技術と水産資源の生物学特性を学ぶと共に、光計測技術やロボット工学に関する基礎知識を修得し、効果的な集魚や探知等が可能な高度水産技術の開発に意欲的に取り組み、社会貢献及び地域活性化を志向するとともに、次世代スマート水産業に貢献できる人材を育成	
活躍が期待される分野	水産関連機械製造業、水産業及びそれらの関連法人、漁業協同組合、生協、食品製造業、水産技術者、ベンチャー起業家、公務員等口	
年次	1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●生物生産科学特別演習④BIOS6950	●生物生産科学特別研究④BIOS6960
	(研究題目設定) (中間発表)	(学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	
所属基礎コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※※	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	●生物生産科学特別講義①BIOS6190 ●生物生産科学特別実習①BIOS6820 ●生物資源学研究④BIOS6900	
研究科共通科目 4単位 DP-2	●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	
【修了必要単位数】 32単位以上 DP:ディプロマポリシー	●印は「必修科目」 ※他専攻教育クラスター科目は履修の手引き参照 ※農工連携クラスター(2) 推奨科目 ※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基礎コース専門科目の単位となります。	
トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学 研究 ・生物生産科学特別演習 ・生物生産科学特別研究	

対象コース	生物生産科学コース	
学生が学修したいテーマ	次世代の林産加工技術を学ぶ	
選択する教育クラスター	農工連携クラスター(3)	
養成する人材像	最先端の育種技術と森林資源の生物学特性を学ぶと共に、林業の省力化を図るためのロボット工学に関する基礎知識を修得し、高度耐久の木材の開発等に意欲的に取り組み、社会貢献及び地域活性化を志向するとともに、次世代スマート林業に貢献できる人材を育成	
活躍が期待される分野	林業関連機械製造業、林業及びそれらの関連法人、林業協同組合、生協、建設業、林産加工技術者、ベンチャー起業家、公務員等口	
年次	1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●生物生産科学特別演習④BIOS6950	●生物生産科学特別研究④BIOS6960
	(研究題目設定) (中間発表)	(学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	
所属基礎コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※※	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	●生物生産科学特別講義①BIOS6190 ●生物生産科学特別実習①BIOS6820 ●生物資源学研究④BIOS6900	
研究科共通科目 4単位 DP-2	●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070	
【修了必要単位数】 32単位以上 DP:ディプロマポリシー	●印は「必修科目」 ※他専攻教育クラスター科目は履修の手引き参照 ※農工連携クラスター(3) 推奨科目 ※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基礎コース専門科目の単位となります。	
トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学 研究 ・生物生産科学特別演習 ・生物生産科学特別研究	

対象コース	生物生産科学コース
学生が学修したいテーマ	地域の農林畜水産物を6次産業化する方法を学ぶ
選択する教育クラスター	6次産業クラスター
養成する人材像	ゲノム編集技術等の最先端の育種技術を学ぶと共に、植物工場などの施設型生産システムやAIやロボットを活用する生産システムに関する科目を履修し、より生産性の高い農業、高付加価値製品の生産、新しい品種改良の知識・技術を修得し、新しい農業を通して社会貢献、地域活性化を志向するとともに、地域創成のため、地域の農林畜水産物を6次産業化する実践力につながる基礎知識を持つ人材を育成
活躍が期待される分野	6次産業関連企業、ベンチャー起業家、農林畜水産業及びそれらの関連法人、種苗企業、農協、生協、食品製造業、食品関連企業（生産・研究・商品開発）、公務員等

年次		1年次		2年次	
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●生物生産科学特別演習④BIOS6950 (研究題目設定) (中間発表)		●生物生産科学特別研究④BIOS6960 (学位論文作成)・(学位取得)	
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻)			
	自コース科目 ※※	蛋白質機能学特論②AGCH6020 応用微生物学特論②AGCH6010 食安全学特論②BIOS6130 水産植物学特論②BIBI6020 畜産物利用学特論②BIBI6010 農業市場学特論②ASSE6000 農業経済学特論②ASSE6010 植物細胞工学特論②BIBI6030 動物生殖工学特論②ALSC6000 植物保護学特論②BISC6100 分子発生生物学特論②BISC6110	食品評価特論②BIOS6150 酵素化学特論②AGCH6000 他専攻教育クラスター科目※ 森林生物学特論②BIOS6210 フィールド水圏生物学特論②BIBI6000 森林代謝科学特論②BIOS6200 生産システム制御工学特論②PPEA6000 分子生態学特論②BIOL6000 植物分子生物学特論②BISC6120 発生生物学②BBIO6000		
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1		●生物生産科学特別講義①BIOS6190 ●生物生産科学特別実習①BIOS6820 ●生物資源学研究④BIOS6900			
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●データサイエンス②PINF6010 グローバル社会文化論①LING6010 科学技術論B①SCTE6070			
研究科共通科目 4単位 DP-2					

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻教育クラスター科目は履修の手引き参照

※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

トランスファラブルスキル修得科目	・生物資源学研究	・生物生産科学特別演習	・生物生産科学特別研究
------------------	----------	-------------	-------------

### (13) とくしま創生人材教育プログラム (COC+R プログラム)

- ・本教育プログラムは、文部科学省「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業 (COC+R 事業)」に令和2年度に採択され、令和3年度入学生から開始している徳島大学独自の教育プログラムです。
- ・地域を創生する能力と素養を育成するための特別のプログラムです。
- ・徳島の地域で将来性のある企業で活躍できる職に就くため、また、行政などでまちづくりや地域の開発を担う技術者やリーダーとなるため、大学時代に地域の多様な企業や行政の仕事、OB / OG などの方々と知りあうことなど、皆さんにとって大きな力を身に付ける機会となります。徳島で働くことに興味ある人はぜひ履修してください。

履修プログラムの流れ 以下の2つの分野の履修をします。

#### ★★ 地域学習・実習科目の履修 ★★

地域の先進的な業種で活躍するための実践力を身に付ける科目です。

##### 1) 地域企業エクスターンシップ 研究科共通 1単位

徳島県内の主要な分野の企業・行政の経営者・OB / OG と学内での対話、半日の訪問をします。

県内で働くことに関心のある人は、まずこの科目を履修してください。

研究科共通のイノベーション教育科目 (1単位選択必修) の科目です。

##### 2) 実践型地域インターンシップ 研究科共通 1単位

企業や地域の課題解決を実践するプロジェクト型のインターンシップです。

下記は各専攻で開設されているインターンシップ、実習科目です。

##### 3) 地域創成プロジェクト研究 地域創成専攻 3単位

##### 4) インターンシップ (M) 理工学専攻 2単位

##### 5) 課題解決型インターンシップ (M) 理工学専攻 4単位

##### 6) 心理実践実習Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ 臨床心理学専攻 各2単位

##### 7) 徳島の魅力・徳島で働く 前期夏期集中 (8月)

四国大学・徳島文理大学・阿南高専との共同で行う授業です。徳島県内で活躍するリーダーやOB / OG を講師に迎えて、働く経験やメリットを学びます。他大学の学生とワークショップで地域創生を考えます。

※7) は学部の教養科目です。修了要件には含まれませんが、徳島で働くことを希望している人は授業の聴講をお勧めします。内容の一部の聴講も可能です。

#### ★★ 基礎力育成科目の履修 ★★

地域で活躍するための基礎力を身に付ける科目です。

自らの興味のあるテーマを履修してください。科目は今後追加されることがあります。

#### 共通科目

データサイエンス 創成科学研究科共通科目 必修2単位

#### テーマ1 情報処理 (データサイエンス)

1) 科学技術論C 創成科学研究科共通科目 1単位

2) アプリケーション実装実習 理工学専攻 2単位

#### テーマ2 マネジメント (プロジェクト管理)

1) ビジネスモデル特論 創成科学研究科共通科目 1単位

2) プロジェクトマネジメント 理工学専攻 2単位

### テーマ3 デザイン・コミュニケーション

映像デザイン特論 地域創成専攻 2単位

自分が関心のある一つの方野を選び、集中して履修することを推奨します。なお、上記科目（一部を除く）は他専攻の学生も履修できます。また、上記分野に類する科目の履修も認定されることがあります。

### COC+R プログラム履修登録

徳島で将来働きたいと考えている人は、COC+R プログラムの履修登録をしてください。プログラム履修は地域学習・実習科目（上記の1）～6）いずれか1科目）を履修もしくは聴講した人が対象です。登録は2年生後期に対象者に通知してWEBサイトで行います。

プログラム履修者には以下のような支援・特典があります。

#### ○とくしまでのつながりイベントなどの情報提供

徳島で働く先輩などとのつながりがつくれたり、地域の企業の情報が得られる多彩なイベント、セミナーなどの情報を提供します。

#### ○専門外の資格習得支援

プログラム履修者には、就職等に有利な、自分の専門分野以外の資格取得を支援します。

#### ○履修証明、地域クリエイター・マイレージ・ポイント（略称：地域クリエイターポイント）

下記のような就職時にポートフォリオとして示せる証明がもらえます。

##### 1) プログラム修了者

地域学習・実習科目のうち1科目以上を履修し、地域学習・実習科目と基礎力育成科目から合計3科目以上を履修した人はプログラム履修修了者として認定します。

##### 2) 地域クリエイター・マイレージ・ポイント（地域クリエイターポイント）の認証

プログラム履修者には、上記科目の履修時間数および COC+R 事業関連のイベント、セミナー、会社訪問等への出席を地域ポイントとして付与します。取得状況を示す書面が専用 WEB サイトから入手できます。

##### 3) 地域クリエイター表彰

高い地域クリエイターポイントを取得した学生は徳島県知事・徳島大学長名で表彰されます。

地域ポイント取得上位者3名に表彰状と副賞を交付します。

また、一定以上のポイントを取得した者には徳島大学長名の表彰状と副賞を交付します。



上記で示されている科目以外にも履修認定され、地域クリエイターポイントにカウントされる科目があります。詳しくは、プログラムサイトに掲載します。地域クリエイター表彰を目指してください。

# 学生への連絡及び諸手続について

## (1) 学生への通知・連絡方法

大学が学生に対して行う一切の告示・通知・連絡等は、原則として「教務システム（WEB）」により伝えることとなっています。したがって1日1回は必ず確認し、自己に不利益な結果を招かないようにしてください。ただし、内容によっては、生物資源学専攻掲示板（総合研究実験棟1階）の利用も行いますので確認するようにしてください。

なお、「教務システム」もしくは「教務システム」の「メッセージ」転送機能を利用して、日々の連絡事項を確認するようにしてください。ただし、転送されたメッセージに対して、返信することはできません。

また、Cアカウントメールにも日々重要な連絡、情報が届きますので、必ず毎日確認してください。

### 日々の連絡事項確認方法

1. 「教務システム」及び「Cアカウントメール」を毎日閲覧する。
2. 「教務システム」の「メッセージ」転送機能及び「Cアカウントメール」転送機能を利用してスマートフォン等に転送された通知を確認する。

注1：セキュリティ対策ツールの影響でメールが迷惑メール等として処理される場合や拒否設定などによりメールが受信できない場合がありますので、注意が必要です。

また、転送先のメールアドレスを変更した場合は変更処理を行うことを忘れないようにしてください。

- 2：大学が提供するCアカウントメールは、スマートフォンやPC、WEBメールにも対応しており、設定も簡単です。「メッセージ」転送機能の転送先としてCアカウントメールを設定することをおすすめします。

マニュアルは「教務システム」トップページの右側にあります。

## ① 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するもので、附属図書館等の入退館カード、図書館利用証（貸出）、定期健康診断の受付、各種証明書の発行の機能があります。また、生協電子マネー Supica や生協ミールプランの機能も利用できます。大切な物なので、紛失しないよう注意してください。

本証を紛失したときは、生協電子マネー Supica 等の不正利用を防止するため、生協の組合員アカウントマイページによりICカード利用停止申請するか、生協事務所（088-652-1073）に連絡してください。

期間更新、氏名変更等による再交付は無料ですが、汚損又は紛失による場合は有料（1,100円）となります。上記に係る「再発行の申請」手続きは、教育支援課教務情報係で行ってください。

## ② 各種証明書の発行

各種証明書の発行申請については、所定の「証明書交付願」により必要とする日の3日前（英文の場合は7日前、申請日及び土・日・祝日は除く。）までに、手続をしてください。また、一部の証明書については、コンビニエンスストアで発行できるサービス（有料）も利用できます。詳細は、大学ホームページ（下記URL）をご参照ください。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/campus/process/convenience/>



1. 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）＜担当 学務部教育支援課＞

教養教育4号館1階及び理工学部共通講義棟にある証明書自動発行機により入手できます。学割証は、修学上の経済的負担の軽減と学校教育の振興に寄与することを目的として設けられた制度です。この制度

を十分に理解し、他人に譲渡したり不正使用等を絶対しないでください。

- (a) 学割証の有効期限は3か月です。
- (b) 年間10枚を限度として使用できます。(ただし、就職支援の一環として、1申請につき5枚を限度に追加を申請できます。)
- (c) 学割証の発行は、原則として次の目的により旅行する場合です。
  - ・ 休暇等による帰省
  - ・ 正課の教育活動(実習を含む。)
  - ・ 課外活動
  - ・ 就職又は進学のための受験等
  - ・ 見学又は行事等への参加
  - ・ 傷病の治療等
  - ・ 父母等との旅行

## 2. 通学証明書 <担当 学務部教育支援課>

- ・ 通学定期券購入のみに発行します。
- ・ 通学以外のアルバイト等には使用しないこと。

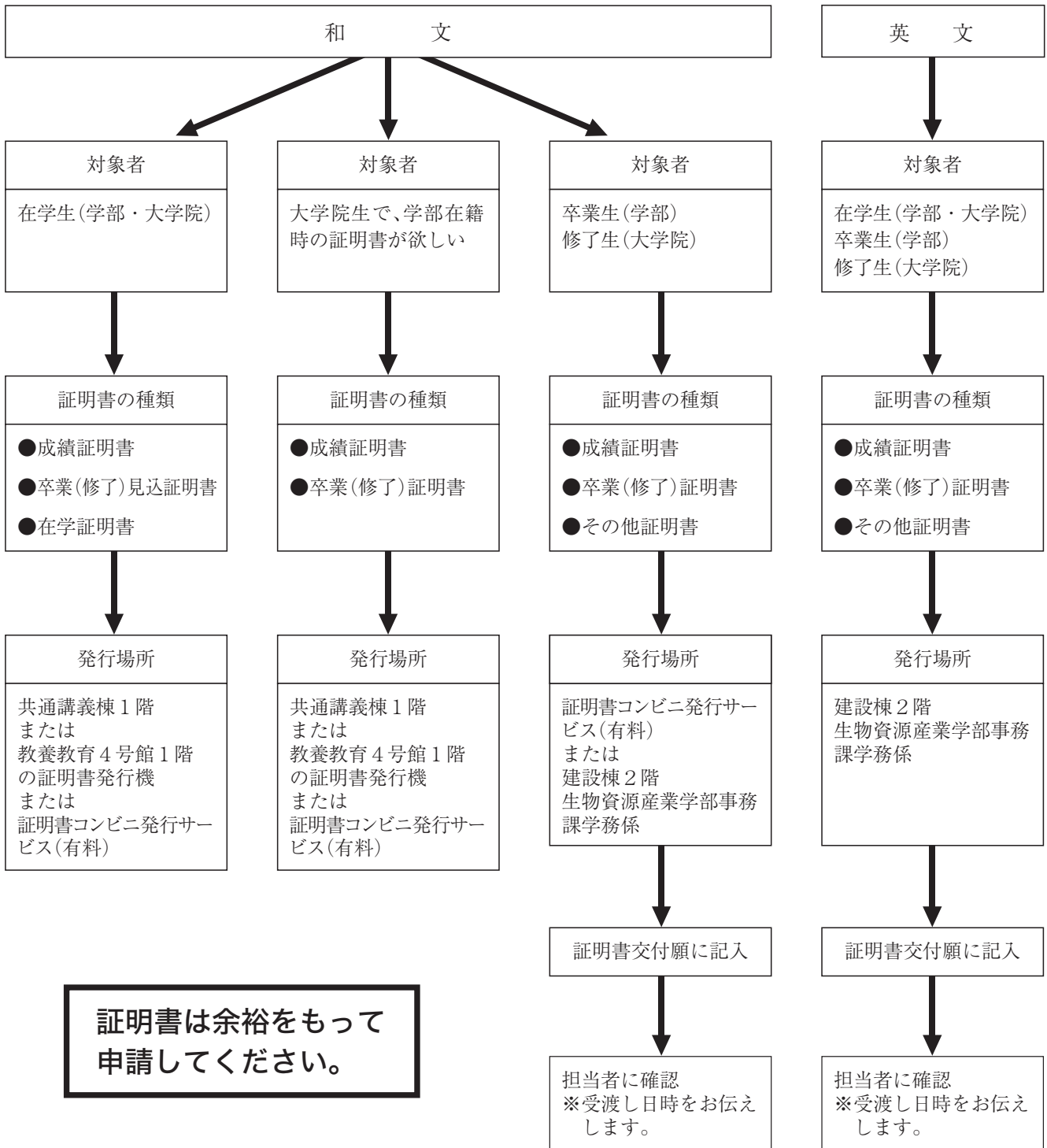
## 3. 在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書 <担当 生物資源産業学部学務係>

教養教育4号館1階及び理工学部共通講義棟にある証明書自動発行機により入手できます。1日につき、各6枚まで発行できます。コンビニエンスストアで発行できるサービス(※一部証明書)もあります。

## 4. その他必要とする証明書

その都度、担当係へ相談ください。

【創成科学研究科生物資源学専攻】証明書申請方法



**証明書は余裕をもって申請してください。**

郵送をご希望の場合は、ホームページで詳細をご確認ください。

【証明書コンビニ発行サービス (有料)】

一部の証明書については、コンビニエンスストアで発行できるサービス (有料) も利用できます。詳細は、大学ホームページ (以下 URL) をご参照ください。

[https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/for\\_graduate/](https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/for_graduate/)



## (2) 諸手続について

### 事務室の窓口業務時間

【平日昼間（土・日・祝日を除く）】8：30～17：15（12：00～13：00を除く）

### 学務係（建設棟 2 階）での相談、申込み

#### 1. 各種証明書

和 文 (日本語)	成績証明書*、単位修得証明書	必要とする日の <u>3</u> 日前までに申請をしてください (土・日・祝日を除く)  *証明書自動発行機にて、発行可能な証明書です。
	卒業見込証明書*	
	修了見込証明書*	
	他大学受験許可書	
	卒業証明書*	
	修了証明書*	
	在学証明書*	
	その他の証明書	必要とする日の <u>7</u> 日前までに申請をしてください。 (土・日・祝日を除く)
英 文	英文証明書	

2. 学生の入学・卒業及び修了に関する事
3. 成績管理に関する事
4. 授業関係及び期末試験等に関する事
5. 研究生及び科目等履修生等に関する事
6. 教員免許に関する事
7. 学位に関する事
8. 講義室の管理に関する事
9. 学生の休学・復学及び退学等に関する事
10. 転専攻等に関する事

### 学務部（教養教育 4 号館 1 階）での相談、申込み

#### 1. 各種証明書

- (a) 学校学生生徒旅客運賃割引証\*
  - (b) 通学証明書
  - (c) 学生証
  - (d) 健康診断証明書
2. 各種奨学金に関する事
  3. 入学料及び授業料免除に関する事
  4. 学生の健康管理に関する事
  5. 合宿研修及び課外活動に関する事
  6. 学生の就職に関する事

\*証明書自動発行機にて、発行可能な証明書です。

### (3) 休学、復学、退学等の手続き

休学、復学、退学等を希望する学生は、就学上いろいろな問題が生じるので事前に、指導教員とよく相談して、生じると考えられる問題について助言指導を受けてください。

学生 → 指導教員に相談 → 学務係で所定用紙の交付を受ける → 願出用紙に指導教員、学生委員の認印 → 学務係へ提出（希望日の1ヶ月前までに提出すること）

#### 休学

- 1) 疾病その他の理由により2か月以上就学することができないときは、医師の診断書（疾病）又は詳細な理由書（疾病以外の理由）等を添えて学長に願い出て、その許可を受けて休学することができます。休学理由によって必要書類が異なりますので、必ず確認してください。
- 2) 休学は、1年を超えることはできません。ただし、特別な理由がある者には更に引き続き1年以内の休学を許可することがあります。
- 3) 休学期間は、通算して2年を超えることはできません。
- 4) 休学期間は、在学期間に算入しません。

注) 休学者の授業料：休学を許可された者は、授業料について次の措置がとられます。

- ア 授業料については、休学願の受理日の翌学期分から、休学期間に応じて免除されます。（受理日の属する学期の授業料は徴収されます。）
- イ 納付済の授業料は返還されません。

#### 復学

- 1) 休学期間満了、休学期間の途中にかかわらず、復学する場合は、復学願の提出が必要です。
- 2) 疾病が理由で休学した場合は、復学願の他、医師の診断書が必要です。

#### 退学

退学しようとする時は、退学願に詳細な理由書を添えて提出し、学長の許可を得なければなりません。退学しようとする日の属する学期の授業料について全額が必要となります。授業料未納のままでは退学出来ません。未納のままであると、徳島大学学則第28条により「除籍」となります。

#### 除籍

次の各項目の一に該当した場合は、教授会の議を経て学長が除籍します。

- (a) 入学料の免除を不許可とされた者又は半額免除を許可された者であって、納付すべき入学料を学長が指定する期日までに納付しない者
- (b) 正当な理由がなく授業料の納付を怠り、催告しても、納付しない者
- (c) 学則に定める在学期間を超えた者
- (d) 学則に定める休学期間を超えた者
- (e) 疾病その他の理由により成業の見込みがないと認められる者

#### 改姓（名）届・旧姓使用申出書

姓・名に変更があれば、直ちに所定の届出用紙により報告してください。

また、旧姓を使用希望の場合は、旧姓使用申出書により手続してください。

### (4) 学修成果等の評価に対する異議申し立て

生物資源学専攻が開講する科目に関する学修成果等の評価について異議がある場合は、以下の方法で申し立てができます。授業に関する申し立ても同様の方法によってください。

#### 1. 授業担当教員への申し立て

学修成果等の評価について異議がある場合、授業担当教員または学務係に申し出てください。授業担当教員が試験等資料を保管していますので、確認を行い、必要に応じて訂正等を行うことになっています。

なお、成績評価の申し立ての期限は原則として成績が公開された学期の末月15日までとします。ただし、

当該学期に卒業又は修了予定である学生が申し立てを行う場合の期限は、卒業又は修了予定月の前月の末日までとします。なお、申し立て期限の最終日が土日等休日の場合は、土日等休日が明けた平日までとします。

## 2. コース教務委員等による調停

学修成果等の評価に対する異議の問題が、上記1. で解消しない場合は、学修成果等の評価に対する異議申立書を学務係に提出してください。教務委員等による調停を行います。詳しくは、学務係にお問い合わせください。

## (5) 授業料納付、免除制度および奨学金制度

### 1. 授業料納付

授業料は、前期分（4月～9月）と後期分（10月～3月）に区分し、次の期間に納付してください。（入学手続きの際に納付した者は除く。）

前期分→5月末日まで

後期分→11月末日まで

納付方法→原則口座振替（預金口座からの引落としによる納付）

\* 5月27日、11月27日に口座振替。

その日が休日の場合は、直後の金融機関の営業日に口座振替。

### 2. 授業料免除制度

奨学援助の方法として、授業料免除の制度があります。これは経済的な理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、また、各期ごとの納期前6ヶ月（新入生は1年）以内での学資負担者の死亡もしくは風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難であると認められた場合には、前期・後期ごとに選考のうえ、授業料の全額または半額が免除されます。

なお、この制度の適用を受けるためには授業料免除申請手続が必要です。

手続方法については、本学ホームページ、教務システムのお知らせ等で通知します。申請期間を過ぎてからの受付はできませんので、ご注意ください。

### 3. 奨学金制度

#### 《日本学生支援機構》

日本学生支援機構の奨学金は、勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生が経済的理由により修学をあきらめることのないよう支援することを目的として国が実施する制度です。

奨学金の種類には『第一種奨学金（無利子）』及び『第二種奨学金（有利子）』があります。奨学金の詳細について、日本学生支援機構ホームページから最新の情報を確認してください。

奨学生の募集については、その都度教務システムのお知らせや学生用掲示板に掲示しますが、春の定期募集は4月～5月頃にあります。

注1. 奨学生は、「奨学生のしおり」を熟読し、奨学生としての責務を果たし、異動（休業・退学）等が生じた時は速やかに学生支援課奨学金窓口（教養教育4号館1階）へ申し出てください。

#### 2. 奨学金継続願の提出

奨学生は、毎年所定の月（12～1月頃）に継続願を提出し、審査を受ける必要があります。これを怠ると、奨学生の資格を失うので注意してください。

#### 《日本学生支援機構以外の奨学金》

地方公共団体及びその他の奨学金の募集が毎年3月～5月頃にあるので、教務システムのお知らせ及び学生用掲示板を確認してください。

## (6) 学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険

### 【学生教育研究災害傷害保険】

この保険は、学生が教育研究活動中及び通学中等に不慮の災害事故により身体に傷害を被った場合の災害補償制度として、公益財団法人日本国際教育支援協会が損害保険会社と契約して実施しているもので、入学時にすべての学生が加入しているものです。

事故にあった学生は、事故発生の日から原則 30 日以内に事故通知報告用紙により協会に届け出る必要がありますので、学生支援課学生支援係で用紙を受け取り必要事項記入のうえ、学生支援課学生支援係に提出してください。なお、保険金請求は治療が終わってから、学生支援課学生支援係に申し出て手続きを行ってください。

### 【学研災付帯賠償責任保険】

この保険は、学生が正課、学校行事、課外活動及びその往復中、他人にケガを負わせた場合や他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償するもので、令和 8 年度以降入学の生物資源産業学部生は、入学時に加入しています。

事故が起こった場合は、上記「学生教育研究災害傷害保険」と同じ手続きを行ってください。

## (7) 学生金庫

学生で、学資金の窮迫している者又は緊急の出費を必要とする者に対して一時援助をするために行う貸付金の制度です。詳細に関しては学生後援会（学務部教育支援課内）へ相談してください。

1. 貸付限度額は 10 万円までとします。
2. 貸付期間は、貸付日より 90 日以内とします。
3. 貸付金は無利子・無担保とします。

## (8) 住所・連絡先の変更について

学生への連絡は、原則として教務システムからお知らせしますが、緊急を要する場合の連絡等に必要のため、変更があれば直ちに教務システムの学籍情報から修正してください。

また、保証人（保護者等）の変更や住所・連絡先変更の場合は、直ちに「保証人住所変更届」により学務係へ届け出てください。

## (9) 自然災害等による授業の休講

- (1) 徳島市に「暴風警報」、「大雨警報」、「大雪警報」、「洪水警報」が発表された場合、当日の授業の休講に係る基準及び措置については、次の表のとおりとする。

基準	措置
午前 7 時に発表中の場合	午前の授業を休講とする。
午前 7 時を過ぎ午前 11 時に至るまでの間に発表された場合	次の時限以降の午前の授業を休講とする。
午前 11 時に発表中の場合	午後の授業（夜間の授業を除く。）を休講とする。
午前 11 時を過ぎ午後 4 時に至るまでの間に発表された場合	次の時限以降の午後の授業（夜間の授業を除く。）を休講とする。
午後 4 時に発表中の場合	夜間の授業を休講とする。
午後 4 時を過ぎて発表された場合	次の時限以降の授業を休講とする。

- (2) 徳島市に特別警報（波浪特別警報を除く。以下同じ。）が発表された場合、当日の授業は休講とする。なお、授業開始後に特別警報が発表された場合は、直ちに休講とする。
- (3) 徳島市に震度 5 強以上の地震が発生又は大津波警報が発表された場合は、直ちに休講とする。

- (4) 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合は、「徳島大学災害対策マニュアル」に従い、3日間の休講とし、必要に応じて、休講を延長することができる。

## (10) 健康管理

定期健康診断は、毎年4月に実施していますので必ず受診してください。また、就職活動や各種体育大会出場の際に必要な健康診断証明書は、当該年度の定期健康診断を受診すると証明書自動発行機またはキャンパスライフ健康支援センターで発行することができます。

## (11) インフルエンザ・新型コロナウイルス等の感染症と診断された場合の対応について

学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等）と診断された場合又は感染者と同様の症状がある場合は、直ちに以下 URL（Forms）より生物資源産業学部事務課学務係に連絡してください。

<https://forms.office.com/r/hDtWH3WBDe>



## ハラスメントに関する注意

### 1) ハラスメントを防止するための基本的な心構え

ハラスメントとは、「権力を利用して行われる理不尽な行為」と定義されます。大学においては、特に教員と学生との関係では、教員は単位の認定権、研究指導、卒業・修了認定権、学位授与権を持っているので、学生に対して圧倒的に大きな力を持っています。しかし、教員の中には学生に対しての力を意識していない場合も見られます。また、特に教授は、任期付教員の任期更新の評価も行うため、任期付教員に対しても強い力を持っています。このように、大学内には、教員と学生、教員と職員、常勤と非常勤などの間に力関係が存在し、立場が弱い人がハラスメントを受けやすい構造的問題があることを認識する事が重要です。ハラスメントを防止するためには、次のような意識が必要です。

- 個人の尊重という人権保護の基本を理解し、お互いの人権を尊重する。
- 自らの言動の影響力を自覚し、常に相手への配慮を保つ。
- 学生や教職員を指導する立場にある人は、ハラスメントが教育を受ける権利、研究する権利、良好な環境で学習、就労する権利などを侵す人権侵害行為であることを認識し、言動、行動に注意すること。
- 周囲と十分なコミュニケーションを取るよう心がけ、相互の信頼関係を構築すること。

### 2) ハラスメントに相当する行為

#### セクシュアル・ハラスメント

- 単位認定や研究指導を条件に交際を強要し、誘いを断ると、成績や評価で不当な扱いをする。
- 不必要に身体に接触し、それを拒否されると怒ったり、嫌がらせをする。
- 相手がいやがっているにも関わらず、容姿に関わる話題を述べたり、性的な冗談を繰り返したり、性的経験を話すように強要する。
- 「男のくせに・・・」「女性は・・・」などの性別に関するステレオタイプの発言をする。

#### パワー・ハラスメント

- 「バカ」「やめてしまえ」「役立たず」などの人格を否定する発言をする。
- 人事上の権限をほのめかし、不利益をあたえる言動をする。
- 研究を遂行する上で必要な情報を故意に与えない、もしくは業務に支障がでるほどに指示を遅らせる。
- 極端に長い時間働くことや休日出勤を強要する。

## アカデミック・ハラスメント

- a) 教員が特定の学生に対して、過度にきびしく指導する、もしくは逆に指導しない。
- b) ミーティング等の人前で罵倒したり「君はだめだね」など人格を否定するような発言を繰り返す。
- c) 不当に学生の卒業や就職の妨害をする。
- d) 正当な理由なく、不利なかたちで論文著者名を変更したり、研究チームから除外する。
- e) 全く同じアプローチによる研究を学生間で競い合わせる。
- f) 深夜、休日まで極端に拘束し、研究を押し付ける。

### 3) ハラスメントの事例

#### 事例1：

教員は、学生を研究に専念させるためにアルバイトやティーチングアシスタントを禁止し、一方、学会発表を強制した。この指導に反発する学生たちに、「出来ない場合は修了を延期されても異議は申し立てません」という誓約書を書くように強要した。こういう場合、言葉だけで誓約書を取らなかった場合でも、無理に誓約書を書かせても、どちらもアカデミック・ハラスメントである。結果的に学生は精神的に追いつめられて鬱状態になり、学業に支障をきたした。

#### 事例2：

男性教員は学生たちに「卒業させないぞ」と叱ったり、机をたたいてアカデミック・ハラスメントを繰り返していた。また、飲み会では、女子学生を側に座らせたり、性的な発言を繰り返していた。複数の学生が証言し、調査委員会における事実認定がなされた。加害者に反省は認められない。

#### 事例3：

指導している院生に「ばか」とか「ぼけ」とか言ったり、棒切れを投げつけたりしていた。学生は精神的に追いつめられ、研究意欲を失ってしまったという事例である。教員は、事実関係は否定しなかったものの、それは「励ましの意味だった」と弁明している。加害者はこういう弁明をすることが多い。

#### 事例4：

教授が同じ学科の教員に対して、「業務命令だ」「辞めろ」と言って無理な命令を繰り返し、「パワーハラスメント」と報道されたが、講義中に性的発言をして学生に不快感を与えたり、侮辱的な言葉で学生を叱ったりもしていたので、実際はパワーハラスメント、アカデミック・ハラスメントそしてセクシュアル・ハラスメントの全てを行っていた。この教授のように、アカデミック・ハラスメントやパワーハラスメントをする人はセクシュアル・ハラスメントもしているケースが多い。

### 4) ハラスメント問題への対処

生物資源産業学部では、これらのハラスメント問題の解決にあたり、相談者（被害者）の意向、秘密保持などに最大限の配慮を行い、ハラスメントに対しては、以下のような段階に分けて対応を行います。

- a) 相談員（学生委員またはコース長、指導教員）が、相談者および相談対象者などから事情を聞き、事実関係を明らかにします。
- b) 相談者が精神的にダメージを受けていると判断された場合は、相談者の了解が得られれば、キャンパスライフ健康支援センター総合相談室（総合相談部門）を紹介し、部門教員と連携しながら解決点を探ります。

# 規 則 集

関係する規則は下記のとおりです。

HP で閲覧できますので、確認してください。

規則集掲載 URL : <https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/campus-life/syllabus/#s2>

徳島大学生物資源産業学部 HP →キャンパスライフ→履修の手引  
ご自身の対象年度の「大学院履修の手引（規則集）」をご覧ください。



- 1 徳島大学大学院学則
- 2 徳島大学学位規則
- 3 徳島大学大学院創成科学研究科規則
- 4 徳島大学大学院創成科学研究科学位規則実施細則
- 5 徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する要項
- 6 徳島大学大学院創成科学研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する規則
- 7 徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻履修細則
- 8 徳島大学生物資源産業学部及び大学院創成科学研究科生物資源学専攻における学修成果等の評価に対する異議申立てに関する申合せ
- 9 徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻学位論文審査基準
- 10 修士論文審査委員に関する申合せ
- 11 徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する申合せ
- 12 徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻における長期にわたる教育課程の履修に関する申合せ
- 13 自然災害等による授業への休講措置等に関する申合せ
- 14 徳島大学休学許可の基準に関する申合せ
- 15 徳島大学生物資源産業学部学友会会則

# 付 録

## 1) 生物資源学専攻教員の一覧 (50 音順)

令和 8 年 4 月 1 日現在

### 応用生命科学コース

教授	浅田元子	Tel:088-656-9071	内線:4992
教授	宇都義浩	Tel:088-656-7514	内線:4906
教授	田端厚之	Tel:088-656-7521	内線:4914
教授	松木均	Tel:088-656-7513	内線:4900
教授	山本圭	Tel:088-656-9916	内線:4973
准教授	鬼塚正義	Tel:088-656-7408	内線:4913
准教授	岸本幸治	Tel:088-656-5206	内線:5206
准教授	後藤優樹	Tel:088-656-7515	内線:4902
准教授	白井昭博	Tel:088-656-7519	内線:4915
准教授	玉井伸岳	Tel:088-656-7520	内線:4901
准教授	友安俊文	Tel:088-656-9213	内線:4923
准教授	山田久嗣	Tel:088-656-7522	内線:4907

### 食料生物科学コース

教授	榎元廣文	Tel:088-656-7268	内線:2437
教授	櫻谷英治	Tel:088-656-7528	内線:4932
教授	田井章博	Tel:088-656-7526	内線:4927
教授	田中保	Tel:088-656-7256	内線:2411
准教授	赤松徹也	Tel:088-656-9918	内線:4975
准教授	川上竜巳	Tel:088-656-7247	内線:3660
准教授	佐々木千鶴	Tel:088-656-7532	内線:4940
准教授	向井理恵	Tel:088-656-9917	内線:4974
講師	栗飯原睦美	Tel:088-656-5201	内線:5201
講師	阪本鷹行	Tel:088-656-4936	内線:4936
講師	林順司	Tel:088-656-7332	内線:5203

### 生物生産科学コース

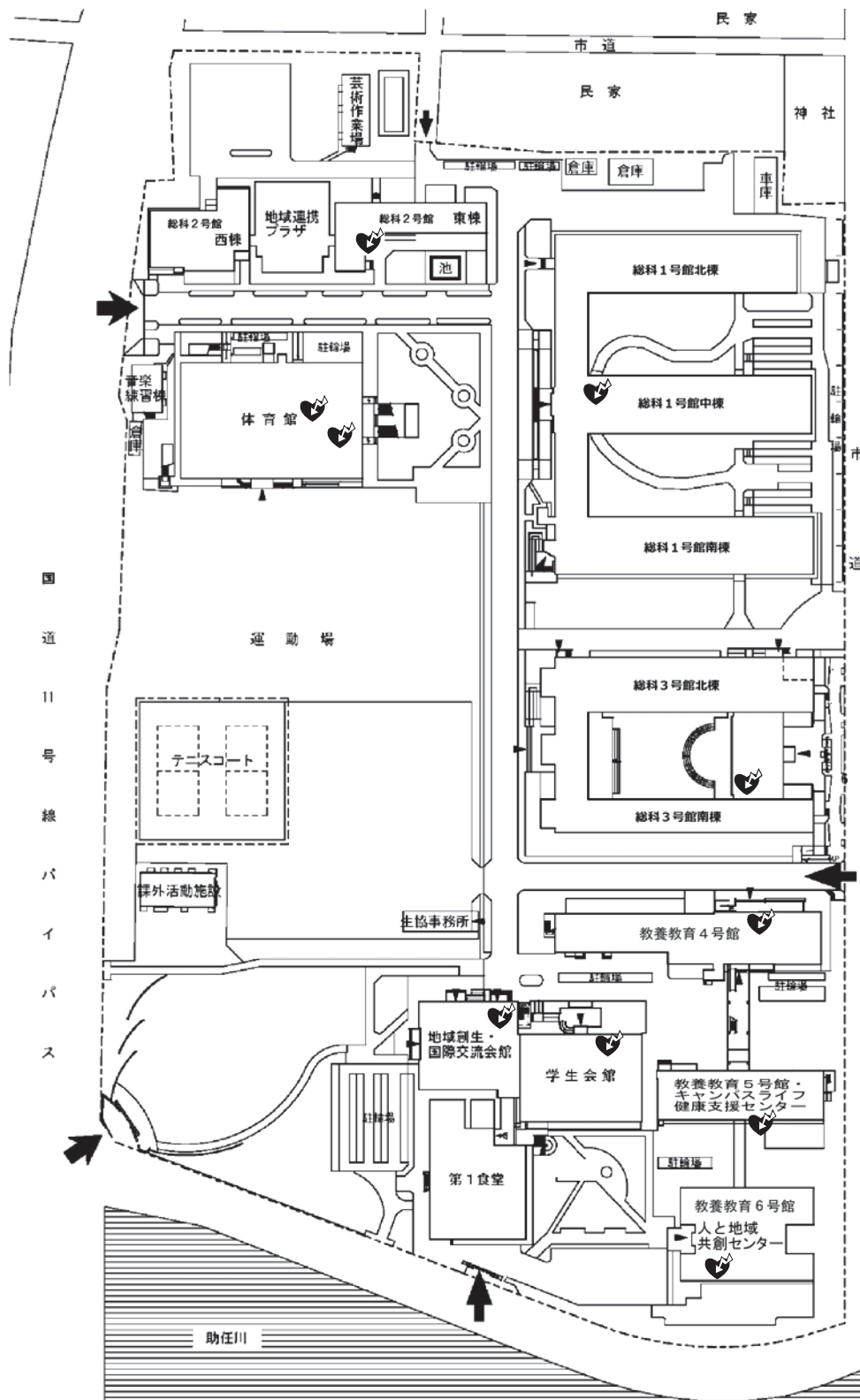
教授	刑部敬史	Tel:088-634-6418	内線:7918
教授	谷原史倫	Tel:088-661-6495	内線:2020
教授	中澤慶久	Tel:088-656-9913	内線:5205
教授	服部武文	Tel:0884-49-1102	
教授	平田真樹	Tel:088-635-8405	内線:2037
教授	三戸太郎	Tel:088-635-3012	内線:2055
教授	森松文毅	Tel:088-635-8406	内線:2042
准教授	石丸善康	Tel:088-656-7530	内線:4934
准教授	岡直宏	Tel:088-683-7027	
准教授	佐藤征弥	Tel:088-656-7222	内線:3630
准教授	橋本直史	Tel:088-656-5204	内線:5204
准教授	宮脇克行	Tel:088-635-3010	内線:2056
准教授	山城考	Tel:088-656-7257	内線:2412
准教授	山田晃嗣	Tel:088-656-9310	内線:4422
准教授	山村正臣	Tel:0884-49-1103	
特任准教授	長原恵	Tel:088-660-5017	内線:2040
講師	松田春菜	Tel:088-683-7027	
講師	渡邊崇人	Tel:088-635-3011	内線:2057

※なお、常三島・蔵本・石井地区間の  
学内通話は次のとおりである。  
常三島地区へは「82 - 内線番号」  
蔵本地区へは「83 - 内線番号」  
石井地区へは「87 - 内線番号」

※生物資源産業学部教員の居室やメールアドレス等連絡先の情報は、「オフィスアワー一覧表」にてご確認ください。  
生物資源産業学部 HP トップページ (<https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/>) →キャンパスライフ→オフィスアワー



## 2) 講義室配置図



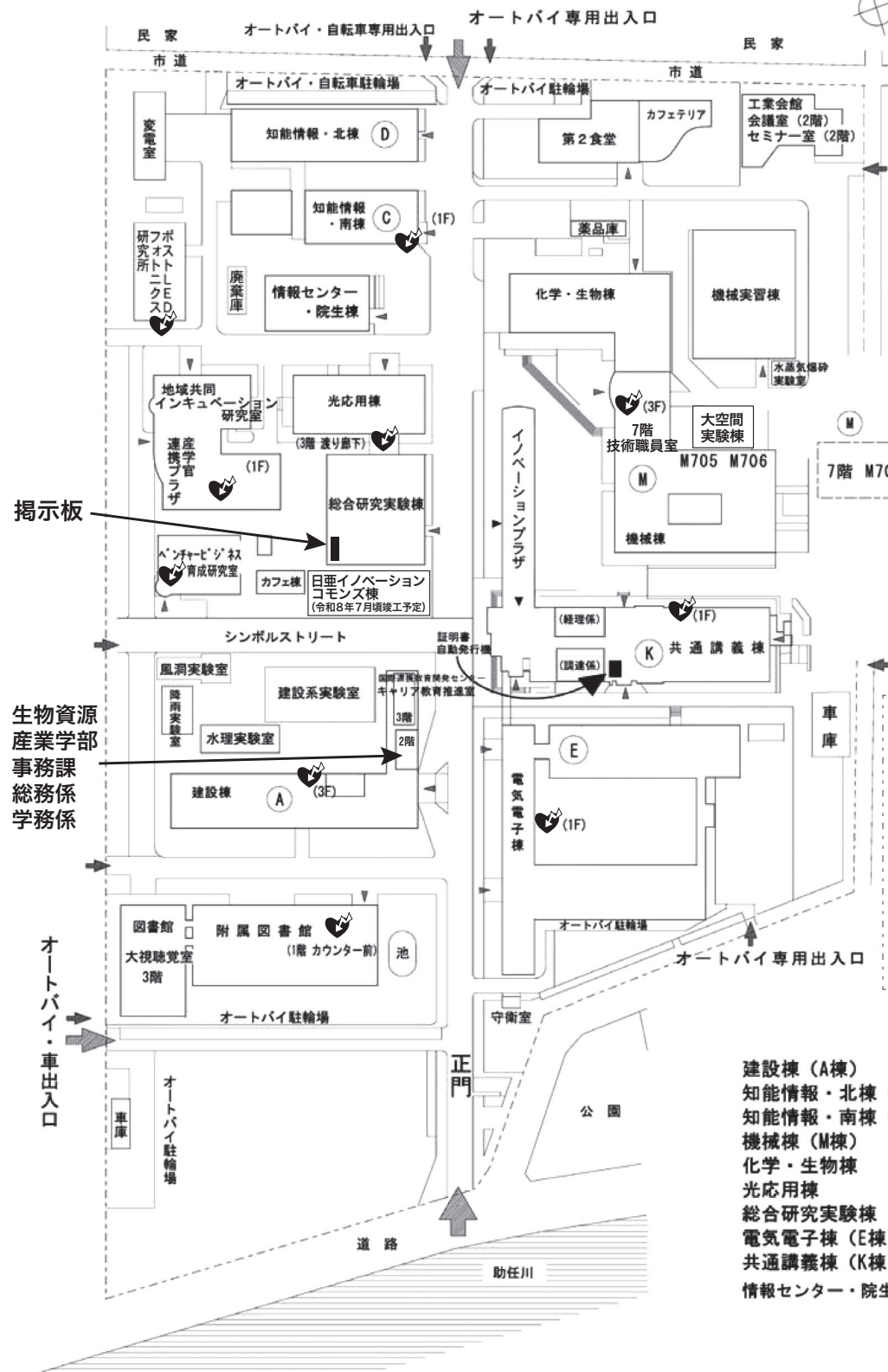
- ... AED設置場所  
 (自動体外式除細動器:  
 Automated External Defibrillator)
- 総科1号館玄関
  - 総科3号館1階東側
  - 人と地域共創センター1階
  - 教養教育4号館1階
  - 教養教育5号館2階
  - 体育館第一体育場入口
  - 体育館1階第二体育場入口
  - 体育館1階柔剣道場
  - 地域創生・国際交流会館3階
  - 学生会館1階

- 総科1号館  
 3階 301講義室～310講義室  
 ゼミ1～9  
 情報実習室1.2
- 総科3号館  
 1階 スタジオ  
 物理実験室1.2  
 生物実験室  
 化学実験室
- 2階 地球科学第1実験室

情報センター・院生棟  
 2階 情報実習室202A  
 情報実習室202B  
 3階 情報実習室301



- AED設置場所  
 (自動体外式除細動器:  
 Automated External Defibrillator)
- Ⓚ 棟 1階 管理室  
 (理工学部事務課前)
  - Ⓜ 棟 3階  
 リフレッシュコーナー
  - ⓐ 棟 1階 玄関
  - ⓔ 棟 1階 EVホール
  - ⓐ 棟 3階 EVホール
  - 光応用棟 3階 渡り廊下
  - 地域共同インキュベーション  
 研究室 1階
  - 附属図書館 1階カウンター前
  - ベンチャービジネス育成研究室 1階
  - ポストLEDフォトニクス研究所  
 1階 EVホール



- 自習エリア  
 2階-5階 (中央エレベーター前)
- 6階 K601, K602  
 創成学習スタジオ
  - 5階 K501-K507
  - 4階 K401-K407
  - 3階 K301-K309
  - 2階 K201-K207
  - 1階 (東側) 理工学部事務課  
 総務係、予算管理係  
 (西側) 理工学部事務課  
 学務係  
 常三島会計課  
 経理係、調達係

- 建設棟 (A棟)
- 知能情報・北棟 (D棟)
- 知能情報・南棟 (C棟)
- 機械棟 (M棟)
- 化学・生物棟
- 光応用棟
- 総合研究実験棟
- 電気電子棟 (E棟)
- 共通講義棟 (K棟)
- 情報センター・院生棟

掲示板

生物資源  
 産業学部  
 事務課  
 総務係  
 学務係

オートバイ・車出入口